

アメリカ研修レポート

研修 1 日目

アメリカにおける薬学教育についての講義



アメリカの薬学部に入學するには、最低 2 年間の大学レベルの学習履修が必須で、4 年制大学を卒業してからの入學が一般的。薬学部に入學してさらに 4 年で合計 8 年。専門的な科学、実務実習、法規などを学び、実務実習は 1 年次から薬局やクリニックに行き実務を経験したり、大学のラボでいろいろなロールプレイを行ったりする。4 年次は全て現場での学習となり、6 週間ごとに薬局、外来診療、ICU など 7 つの場所に行き実習を行う。そのため薬学部を卒業したら即戦力として職場で働ける。

大学病院内の薬局見学





メディカルセンターを見学。薬剤部長の説明を受けながら、薬局内の各エリア（調剤・監査・麻薬管理・クリーンベンチ・投薬窓口など）を順番に見学を行った。病棟業務を充実させるために、調剤を自動化させるなど効率化を行っている。アメリカはテクニシャンがいて、テクニシャンは技術的な仕事を行い、薬剤師は監査業務、Dr・患者とのコミュニケーションのみを行うと仕事ははっきりわかっていた

Katterman's Pharmacy 見学

患者の健康を手助けし、コミュニティに貢献することが薬局のモットーとして、新しいサービスや医薬品と健康情報を提供することでシアトルの住民にヘルスケアを提供している。

アメリカでは予防接種が薬局で受けられ、下は点鼻での接種写真。大事な薬局での収入源となっている。薬局というよりは雑貨屋のような状態だったが、薬局として生き残っていくためには収益になるものは売っていかねばいけないとのことだった。





Walgreen Drug Store 見学

アメリカを代表する大型チェーンドラッグストア。豊富な品ぞろえと徹底した社員管理が行われている。

日本のドラッグストアと大差はないが、調剤の価格を Walgreen が下げ他に影響を与えているよう。写真 2 枚目はテクニシャンによる調剤





研修 2 日目

医師との共同による薬物治療



アメリカでは 1978 年ごろより、医師との共同による薬物治療を行っている。医師の診断に基づき薬剤師に処方権が与えられている。ワシントン州で最初に始められ、アメリカ全土に広がるには 30 年近くかかり、2 年前にすべての州で、法令化された。時間がかかったのは、一部の Dr と製薬会社の反対があったため。

Dr は診断、薬剤師は薬物治療の方針、用量を設定したりする。薬局・薬剤師の条件として個室があること、薬剤師が大学で教育を受けていること、医師との契約を交わしているなどがある。現在までに訴訟なしで 300 万人くらいの治療が行われており、Dr のミスをチェックする働きもあるため医師のメリットにも患者のメリットにもなっている。

ワシントン州では 93 年 57 件であった契約が 2011 年には 2000 件以上に増えた。

サービスを提供したら支払を受けるべきであり、日本でも薬剤師が行ったサービスによる結果をリサーチし、支払を要求すべきである。

カウンセリングで効果



アメリカでは、慢性疾患は死因の70%で総医療費の75%をしめている。医療費削減のためにも予防に焦点をあて変化を起こさせる情報発信が必要。変化することは難しいため、変化に対して患者が不快と感じないようにサポートすることが大切。

変化を起こさせるには：行動 動機付け 理解を繰り返し行うことが大切

動機付けでは、共感を表現する・違いを開発する・論争を避ける・抵抗交わす・自己効力感をサポートする・変化の話を引き出す・ことを行う。

午後 ブラッケン臨床薬剤ケアケンシウセンター訪問

このセンターは医師、薬剤師を目指す学生の技術習得、向上を目的として開発された。様々な患者のケアのために必要とされる臨床技術を学ぶための最適環境を備えている。

模擬薬局・患者の評価装置と必需品・ビデオモニターなどがある



ケリー・ロスファーマシー訪問

シアトルで2カ所の独立コミュニティ薬局を経営している。

メールオーダーの薬局を見学。患者がウェブサイトで補充を要請して薬が郵送される。

薬の説明は初回のみ、電話で行う。法律で義務化されているため 慢性疾患の患者用サービス。

一番多い患者からの問い合わせは、価格に関することである。



研修 3 日目

米国ヘルスケアシステム



米国のヘルスケアシステムは、2つの平行する財源から成り立っている

- 1、個人の財源[雇用主ベース・個人の支払]
- 2、公的資金[メディケア:65歳以上・メディケード低所得者]

薬剤給付時、薬局が患者持参の保険カードをウェブ上で入力することによって5秒で自己負担金などの返答がくる。

全ての保険会社にフォーミュラリーというカバーさせれる薬の一覧表があり、その中でも3つのレベルの費用負担がある

- 1、ジェネリック：一番安い費用負担
- 2、好ましいブランド薬：中程度の費用負担
- 3、好ましくないブランド薬：最も高い費用負担

という使う薬によつての費用負担が変更になる。

安くて効果の高い薬剤を選ぶことが薬剤師の大事な仕事のひとつとなっている。

アメリカは医薬分業率が98%ぐらいであり、日本と比べDrの数が对患者当たり1/4程の為薬剤師が薬の選択を行いDrを補助する

オープンディスカッション

午後 ファーマカ インテグレイティブファーマシー訪問

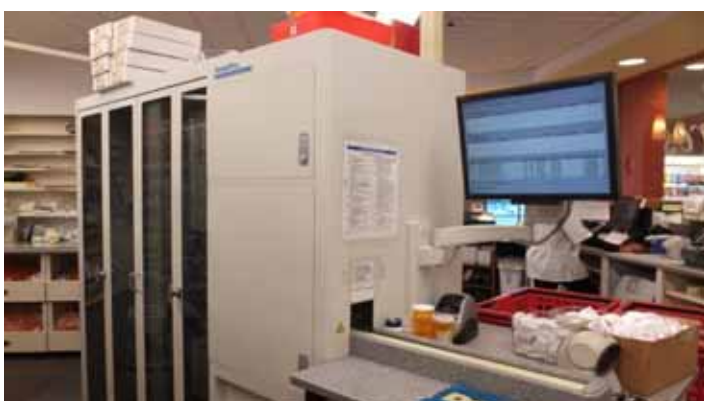
健康志向型ドラッグストア。ハーブなどの自然食品・薬剤などを中心に扱う。ハーブセラピスト、鍼灸の資格者、公認エステティシャン、漢方薬用ハーブセラピスト、薬学博士、マッサージ師、ホメオパシー専門家、自然療法師、栄養士などのスペシャリストなどがある富裕層向けのドラッグストア



パーテルドラッグ訪問

アップーミドル高級層のしっかりしたマーケットをつかみ、好成績をあげている。薬局長 ミュキ・アンダーソンさんが日本人で仕事内容の説明をして頂いた。アメリカのパーテルドラッグストアでは、予防接種などは希望者だけ業務を行えばよかったが、利益となるため必須となった。発疹が起こったり、アレルギーを起こしたり、血がとまらなかったりなどトラブルはいろいろある。

1枚の処方箋で20%くらいの利益があるが、1枚の単価が低く数をこなさなければいけない。患者が先発品を希望しても在庫を抱えるだけであるため、他の薬局に行って頂くか、できるだけG Eで調剤を行っている。



Group Health Corporative 訪問

ワシントンに拠点を置く非営利団体ヘルスケアオーガニゼーション。ワシントンとアイダホで70万人にサービスとケアの提供を行っている。

処方箋をメールや電話で受け付け、患者宅に薬を送料無料で配送。

テクニシャンが処方データを入力すると、薬を入れるボトルに薬品名、用法などが印刷されたシールが貼られ、ベルトコンベアにのせられる。処方された薬品のカセットのところまで行くと、ボトルに薬品が充填される。充填時の写真がひとつずつ自動的に撮られる。

インスリンなど錠剤以外はテクニシャンがすべて調剤。

薬剤師がボトルに貼られているバーコード読ますと、充填されるべき薬剤と実際の写真がコンピューター上に出てきて監査を行う。その後、包装されて郵送される



研修に参加させて頂いて

大学で講義を受け、大学卒業時におけるアメリカの薬剤師のスキルの高さに驚きました。目的意識を持ち、薬剤師になったときの自分像をしっかりと見つめそれにあった研修を組んでいく姿勢がとても素晴らしいと思います。

ただ町の薬局を見せて頂いて、私のイメージでは投薬時にきちんと話をしてからリフィルでいいかの判断をして薬をお渡ししていると思っていましたが、実際は初回の患者さん以外の投薬はテクニシャンが行っており、せっかく得たスキルもコミュニケーションスキルもあまり発揮できないのではと思いました。法律で決まった薬剤師がやらなければならないことだけを行い、その他はテクニシャンが行う、お金になることはやるというとても合理的な仕事内容でした。

大学の 신설により、アメリカでも薬剤師の人数が増えてきており、大学卒業後もレジデントとして大学に残りさらにスキルアップを行わないといい就職口がなく、2年後には確実に薬剤師が余ってくると聞き、日本と同じような状態だと驚きました。10数年かかって薬剤師になっても、アメリカでは価格競争を行うため、利益が少なくなり、その分数をこなさなければいけない状態ではせっかく得た知識が、特にメールオーダーサービスの薬局では活かされないように思いました。

日本の薬剤師は自分達の仕事に対する対価を要求すべきだと講師の先生がおっしゃっていましたが、対価がなくても日本の薬剤師は頑張っているのではないかと思います。

しかし、臨床経験が少ない面、スキルの面ではまだまだレベルアップを行わないとアメリカ薬剤師の処方権などを羨ましく思っても同じことはできないと思いました。

今回研修参加させて頂いて、学べる事が非常にたくさんあり、また、普段何気なく行っている業務の意味や、自分達の存在意義などを深く考えさせて頂けるととてもいい機会になりました。

日本の薬局も変動期にあり、その変動に対応できるよう色々な知識を身につけ頑張っていきたいと思います。

今回は参加させて頂いて本当にありがとうございました。